

B 親魚の標識放流調査（青森県日本海側深浦沿岸放流）

Ⅲ 調査結果

1. 標識魚及び時期

深浦地区においてサケ漁の終漁期にあたる12月12日（水温12.2℃）、雌56尾、雄34尾の放流を行なったが、うち87尾の主体は1年魚である。

第1表 サケ親魚年令組成表

年 度	3年魚	4年魚	5年魚	6年魚	7年魚	不 明	計	備 考
S 4 6	31.5 % 41尾	38.5 % 50尾	25 % 33尾	1.5 % 2尾	-尾	3.1 % 4尾	130尾	日本海
4 7	8 % 12尾	76.7 % 115尾	7.3 % 11尾	3.3 % 5尾	2.7 % 4尾	2.0 % 3尾	150	〃
4 8	12.6 % 11尾	52.8 % 46尾	21.8 % 19尾	11.5 % 10尾	1.1 % 1尾	-	87	〃

2. 再捕状況

再捕されたものは、本県始め秋田、山形県の54尾（海16尾、河川8尾）、再捕率60%で大体毎年同じ率で再捕されているが、新潟、富山両県からは全々再捕報告が得られなかった。富山県の場合は過去3ヶ年とも再捕の実績がないが、本年は特に新潟県での再捕がなかったことは両県におけるサケ漁獲月別割合が11月に最も大きく次いで10月が他の3県に比して大きいことで、これらの県におけるサケの漁期が1ヶ月早いことを示している。

46年～48年にわたり、深浦地区における初、盛、終漁期の各時期における標識放流を実施したが、これらの再捕されるまでの期間についてみると初漁期に放流したものがもっとも長く（27日間）、終漁期に放流したものが最も短い（10日間）ことが判明した。

第2表 日本海各県における年別、月別サケ漁獲割合

県名 年 月 度	秋 田 県						山 形 県					
	4 1	4 2	4 3	4 4	4 5	4 6	4 1	4 2	4 3	4 4	4 5	4 6
9月	0.1 %	- %	2.4 %	0.1 %	0.6 %	0.3 %	- %	0.1 %	0.1 %	0.1 %	0.1 %	0.2 %
10月	3.6	7.2	2.4	4.1	5.4	8.5	4.6	4.8	8.3	6.3	6.5	2.7
11月	61.4	67.0	29.9	83.6	40.1	71.6	36.4	47.9	11.5	63.1	17.8	58.8
12月	34.3	25.8	57.5	12.3	54.0	19.4	58.6	47.1	51.2	30.3	15.5	38.1
1月	-	-	-	0.1	-	-	-	-	-	0.2	0.3	0.2
県名 年 月 度	新 潟 県						富 山 県					
	4 1	4 2	4 3	4 4	4 5	4 6	4 1	4 2	4 3	4 4	4 5	4 6
9月	0.6 %	0.2 %	- %	- %	0.6 %	- %	- %	- %	- %	- %	- %	- %
10月	30.5	31.4	26.3	37.7	23.1	-	29.4	12.5	-	-	10.0	5.6
11月	63.2	59.0	54.4	58.5	53.8	-	64.7	58.3	10.2	66.7	60.0	94.4
12月	5.3	9.5	20.2	4.2	21.3	-	5.9	29.2	-	16.7	15.0	-
1月	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

第3表 サケ親魚標識放流結果一覧表（S46～48）

区分	年 度	放 流 時 期	放 流 数	再 捕 数 (再捕率)	再 捕 期 間	男鹿半島地元における再捕率	河 川 再 捕 数
日 本 海	46 (初)	11. 2～11.20	130 尾	79 尾 (60.8%)	11. 4～12.13 (42 日間)	32.9%	4 尾
	47 (盛)	11.26～11.30	150	91 尾 (60.7%)	11.27～12.17 (22 日間)	29.1%	20
	48 (終)	12. 12	90	54 尾 (60.0%)	12.14～12.22 (11 日間)	62.9%	8

第4表 再捕までの経過日数

日数 再捕県	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	...	22
青 森 県		7										
秋 田 県		25	4	4	1							
山 形 県			3	3	1	1	2		1	1		1
計		32	7	7	2	1	2		1	1		1

なお、本県日本海側（鯉ヶ沢）におけるサケの漁獲時期（10月～12月）についての年別、旬平均水温は年によって大差はなく、サケの水揚げ状況から推して、水温が16℃前後になる11月中旬以降が深浦地先においてサケの盛漁期に入ると思われる。

また、深浦定置組合（山本氏）における水深15m層の観測結果からみても同様なことが窺える。

第5表 深浦地先における水深15m層の旬別平均水温と漁獲量の関係

年	月	10 月			11 月			12 月		
		上	中	下	上	中	下	上	中	下
昭 17 年	水	-	-	3日	6日	8日	7日	5日	3日	6日
	温	-	-	17.8	17.8	16.6	16.0	15.2	13.1	12.1
	漁	1日	6日	6日	7日	7日	6日	7日	6日	6日
	獲	1.8	109.0	182.2 ^{kg}	899.8	11,908.5	12,377.5	5,641.0	3,009.4	133.5
昭 18 年	水	-	6日	8日	8日	1日	3日	5日	7日	6日
	温	-	21.6	19.1	18.1	17.2	15.5	14.7	13.5	11.5
	漁	1日	3日	8日	9日	3日	4日	6日	7日	6日
	獲	6.8	19.8	230.6 ^{kg}	426.8	7,312.5	23,687.8	12,621.4	4,048.5	637.0

一方、本州の日本海側に来游するサケはオホーツク海から宗谷海峡を経て日本海を南下する群と太平洋から津軽海峡を経て日本海へ回游する二つのコースがあるといわれるが、本年偶々11月中旬頃、宗谷海峡を通過して日本海を南下するサケの濃密群があるとの情報があった旬日を経て深浦地先で、深浦地区の給水揚量の半分に達する大量の水揚げ（22トン）があったことと、北海道江

差海岸においても近年にない漁獲があったことから、日本海側に来遊するサケは宗谷海峡を経て日本海を南下する群が主体をなしているといえそうである。

Ⅳ 調査の成果及び今後の課題

1. 53尾の再捕魚を得たが再捕率は60.0%で過去2ケ年と略々同じ再捕率である。
2. 放流から再捕までの経過日数は2日～10日で終漁期のサケほど再捕されるまでの期間が短くなる傾向にある。
3. 青森県の日本海側に来遊するアキサケは月光川(山形県)水系のものが主群と思われる。
4. 本県日本海側へ来遊するアキサケは表面水温が16℃以下になる11月中旬以降、12月上旬にかけて多くなる。
5. 新潟、富山両県のサケ漁獲時期は他の3県に比して1ヶ月早い。これは両県のサケ稚魚放流時期とも関連があるものと思われる。従って両県に回遊するサケ親魚の実態を把握するためには、早期のサケ親魚に標識放流を実施する必要がある。

第 1 図 ナケの標識放流試験再捕図(1973)

(日本海 終漁期)

放流年月日と尾数

1973. 12. 12 90尾

再捕尾数

54尾(うち河川8尾)

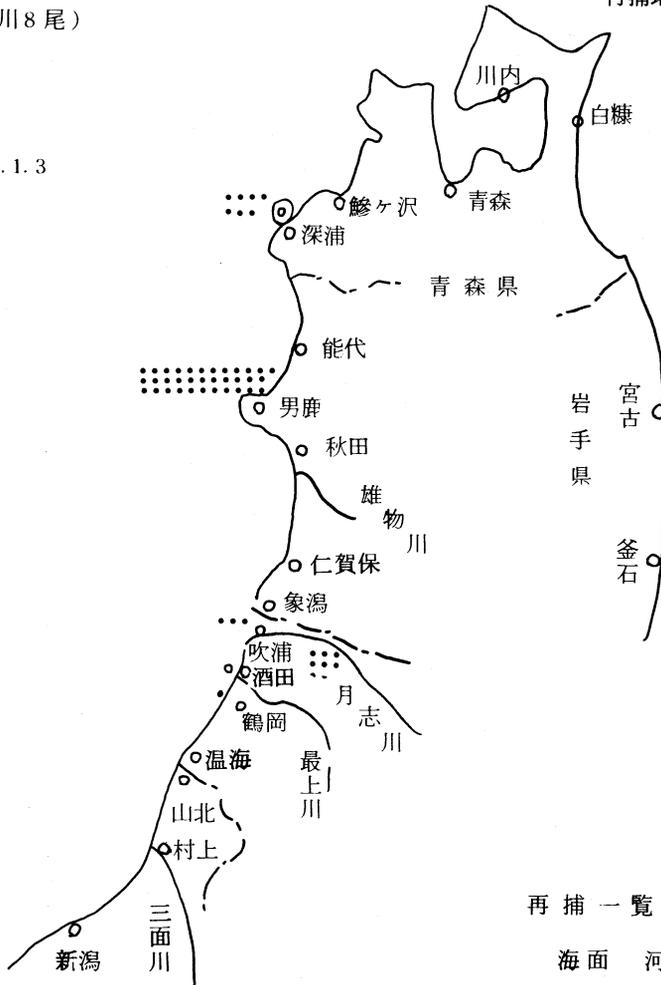
再捕率; 60.0%

再捕年月日

1973. 12. 14 ~ 1974. 1. 3

◎ 放流地点

• 再捕地点(1点1尾)



再捕一覽表

	海面	河川	計
青森県	7	0	7
秋田県	34	0	34
山形県	5	8	13
新潟県			
計	46	8	54

第 6 表 標 識 サ ケ 再 捕 一 覧 表

県名	N O	再捕年月日	標 識 番 号	再 捕 場 所	放流年月日	漁 具	雌・雄	備 考
青 森 県	1	48. 12. 14	青 水 試 - 4 0	深 浦 町 深 浦	48. 12. 12	定置網	雌	
	2	"	6 1	"	"	"	雄	
	3	"	6 3	"	"	"	雌	
	4	"	6 8	"	"	"	"	
	5	"	8 2	"	"	"	雄	
	6	"	8 9	"	"	"	"	
	7	"	9 8	"	"	"	雌	
秋 田	1	18. 12. 14	青 水 試 - 4	男 鹿 市 北 浦 入 道 崎	48. 12. 12	定置網	雌	
	2	"	8	五 里 合	"	底建網	"	
	3	"	9	北 浦	"	定置網	"	
	4	"	16	北 浦 入 道 崎	"	"	"	
	5	"	21	北 浦	"	"	雄	
	6	"	22	"	"	"	"	
	7	"	24	北 浦 入 道 崎	"	"	"	
	8	"	25	"	"	"	雌	
	9	"	30	"	"	"	雄	
	10	"	35	北 浦	"	"	雌	
	11	"	43	北 浦 入 道 崎	"	"	"	
	12	"	44	"	"	"	"	
	13	"	50	北 浦	"	"	雄	
	14	"	51	"	"	"	"	
	15	"	56	北 浦 入 道 崎	"	"	雌	
	16	"	57	"	"	"	雄	
	17	"	58	北 浦	"	"	雌	
	18	"	59	"	"	"	"	
	19	"	71	北 浦 入 道 崎	"	"	"	

